

定期検査（防火設備）・記入上の注意

記入上の注意は報告書に添付する必要はありません。

- 1 定期検査報告書（防火設備）は、次に掲げる書類によります。なお、用紙は、なるべく再生紙を使用し両面印刷に努めてください。
 - 概要書（第三十六号の九様式）
 - 定期検査報告書（防火設備）（規則第三十六号の八様式）、防火設備定期検査票（本市告示第3号様式）、検査結果表（平成28年国交告723号別記第一～四号様式）、検査結果図（平成28年国交告723号別添1様式（A3））、関係写真（平成28年国交告723号別添2様式（A4））、特定行政庁が規則で定める図面（各階平面図）の順で綴じてください。（正・副2部）
 - 定期検査報告書の記入に際しては、「6 定期検査報告書の記入について」（2ページ目）を参考にしてください。
 - 検査結果表の記入に際しては、各様式中、最下段の（注意）を参考に記入してください。
 - ※ 検査結果表は、該当する防火設備に応じた書類を添付してください。
 - ※ 定期検査報告書（副）は、受付時に受付印を押印したうえで返却します。
- 2 定期検査報告書（第一面）中、特定行政庁欄の報告先は「名古屋市長」と記入してください。
- 3 防火設備定期検査票第一面及び第二面の記入は、次の各号に掲げるとおりとします。
 - (1) 第一面
 - ① 「1. 前回指摘の改善状況」
 - ア 前回報告において検査結果表中、検査結果欄において「要是正」の場合であって、その一部でも是正されているときは、「改善済」欄に○印を、「改善済の状況」欄にその状況を記入してください。
 - イ 是正されていないときは、既存不適格の場合も含めて「未改善」欄に○印を記入してください。
 - ② 「2. 防火設備の種類」
 - 建築基準法上必要なものとして設置されている防火設備について、該当する欄に○印を記入してください。
 - ③ 「3. 避難安全検証法等の概要」
 - ア 定期検査報告書（第二面）【5】欄【イ】の□欄にレ印でチェック又は塗りつぶした場合は、適用除外を受けている条項、概要（場所を含む。）を記入してください。
 - イ 該当する項目の□欄をレ印でチェックするか、又は塗りつぶしてください。

4 特定行政庁が規則で定める書類

- (1) 各階平面図は、検査結果表に添付する各階平面図と兼ねることができます。
- (2) 各階平面図には、検査結果表で要正とされた箇所や撮影した写真の位置等を記載してください。
- (3) 図面の大きさは、原則として日本産業規格A 3としてください。
- (4) 各階平面図が基準階として表現できる場合は、基準階平面図とすることができます。
- (5) 図面の記載内容に変更がない場合は、前回の報告書に添付した図面を白焼きで複写したものを添付することができます。
また、図面の記載内容に変更がある場合は、変更のある階について、各階平面図を作成し、変更のない階については、前回の報告書に添付した図面を白焼きで複写したものを添付することができます。
- (6) 図面には、下表の明示すべき事項を記載してください。
- (7) 下表、明示すべき事項中③に係る防火設備の位置については、防火設備の種類ごとに着色を分けて記載してください。

図書	明示すべき事項
建築物の各階平面図	① 縮尺（又は寸法）及び方位 ② 室名 ③ 防火設備の位置及び種類（随時閉鎖又は作動できるもの（防火ダンパーを除く））

防火設備の位置の記入。
(常閉と随閉がわかるよう色分けしてください。)

5 定期調査・検査対象建築設備等の区分

常時閉鎖式防火扉については、検査結果表（防火扉）(1)～(5)の項目等は、定期調査で調査する。(特定行政庁の付加項目等)

○印：対象

区 分			定期調査	定期検査
設置されている設備	防火扉	常時閉鎖式防火扉	○	
		随時閉鎖式防火扉	※	○
	防火シャッター	随時閉鎖式防火シャッター	※	○
	耐火クロススクリーン	耐火クロススクリーン	※	○
	ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備	ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備	※	○

※ 防火設備の法令による設置の状況等については定期調査で調査する。(平成20年国交告282号 調査結果表中4-(26))

6 定期検査（防火設備）報告書の記入について（規則第三十六号の八様式より抜粋）

（注意）第三十六号の八様式の記入について

1. 各面共通関係
 - ① ※印のある欄は記入しないでください。
 - ② 数字は算用数字を、単位はメートル法を用いてください。
 - ③ 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入し添えてください。
2. 第一面関係
 - ① 検査者が2人以上のときは、代表となる検査者を検査者氏名欄に記入してください。
 - ② 1欄及び2欄は、所有者又は管理者が法人のときは、「ロ」はそれぞれ法人の名称及び代表者氏名を、「ニ」はそれぞれ法人の所在地を記入してください。
 - ③ 第二面の6欄の「イ」において「要正の指摘あり」のチェックボックスに「レ」マークを入れた場合においては、4欄の「要正の指摘あり」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
また、第二面の6欄の「イ」において、「既存不適格」のチェックボックスに「レ」マークを入れたときは、併せて4欄の「イ」の「既存不適格」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
3. 第二面関係
 - ① この書類は、建築物ごとに、防火設備の概要及び当該防火設備の構造方法に係る検査結果について作成してください。
 - ② 2欄の「イ」及び「ロ」は、検査対象の防火設備を有する建築物に関する直前の確認について、「ハ」及び「ニ」は、検査対象の防火設備を有する建築物に関する直前の完了検査について、それぞれ記入してください。

- ③ 2欄の「ロ」及び「ニ」は、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れ、「指定確認検査機関」の場合には、併せてその名称を記入してください。
- ④ 3欄の「イ」は、検査が終了した年月日を記入し、「ロ」は、検査対象の防火設備に関する直前の報告について記入してください。
- ⑤ 3欄の「ロ」は、報告の対象となっていない場合には「未実施」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑥ 3欄の「ハ」は、前回の定期検査の結果を記録した書類の写しの保存の有無について記入してください。
- ⑦ 4欄は、代表となる検査者並びに検査に係る防火設備に係る全ての検査者について記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、その他の検査者欄は削除して構いません。
- ⑧ 4欄の「イ」は、検査者の有する資格について記入してください。検査者が防火設備検査員である場合は、防火設備検査員資格者証の交付番号を「防火設備検査員」の番号欄に記入してください。
- ⑨ 4欄の「ニ」は、検査者が法人に勤務している場合は、検査者の勤務先について記入し、勤務先が建築士事務所の場合は、事務所登録番号を併せて記入してください。
- ⑩ 4欄の「ホ」から「ト」までは、検査者が法人に勤務している場合は、検査者の勤務先について記入し、検査者が法人に勤務していない場合は検査者の住所について記入してください。
- ⑪ 5欄の「イ」は、建築基準法施行令第128条の7第3項に規定する区画避難安全検証法により区画避難安全性能が検証された建築物のときは「区画避難安全検証法」のチェックボックスに、同令第129条第3項に規定する階避難安全検証法により階避難安全性能が検証された建築物のときは「階避難安全検証法」のチェックボックスに、同令第129条の2第4項に規定する全館避難安全検証法により全館避難安全性能が検証された建築物のときは「全館避難安全検証法」のチェックボックスに、それぞれ「レ」マークを入れ、「区画避難安全検証法」の場合は区画避難安全性能を検証した階を、「階避難安全検証法」の場合は階避難安全性能を検証した階を、併せて記入してください。建築基準法第38条（同法第66条、第67条の2及び第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定による特殊構造方法等認定、同法第68条の2第1項の規定による構造方法等の認定又は建築基準法の一部を改正する法律（平成10年法律第100号）による改正前の建築基準法第38条の規定による認定を受けている建築物のうち、当該適用について特に報告が必要なものについては「その他」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、その概要を記入してください。
- ⑫ 5欄の「ロ」は、検査対象の防火設備について、チェックボックスに「レ」マークを入れてください。また、防火扉、防火シャッター、耐火クロススクリーンについては、個々の扉又はカーテン部ごとにその枚数を計上し、その合計を記入してください。ドレンチャージについては、散水ヘッドの合計の個数を記入してください。「その他」の場合は具体的な内容と台数を記入してください。
- ⑬ 6欄の「イ」は、検査結果において、是正が必要と認められるときは「要是正の指摘あり」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、当該指摘された箇所全ての建築基準法第3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは併せて「既存不適格」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑭ 6欄の「イ」の「要是正の指摘あり」のチェックボックスに「レ」マークを入れたとき（「既存不適格」のチェックボックスに「レ」を入れたときを除く。）は、「ロ」に指摘の概要を記入してください。指摘の概要を記入する場合にあっては、当該防火設備が設置されている区画の概要を明記してください。
- ⑮ 6欄の「イ」の「要是正の指摘あり」のチェックボックスに「レ」マークを入れ（「既存不適格」のチェックボックスに「レ」を入れたときを除く。）、当該指摘を受けた項目について改善予定があるときは、「ハ」の「有」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、併せて改善予定年月を記入してください。改善予定がないときは「ハ」の「無」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑯ 前回検査時以降に把握した火災時の防火設備不動作等機器の故障、異常動作、損傷、腐食その他の劣化に起因するもの（以下「不具合」という。）について第三面の「不具合の概要」欄に記入したときは、7欄の「イ」の「有」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、当該不具合について記録があるときは7欄の「ロ」の「有」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、記録が無いときは7欄の「ロ」の「無」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。また、第三面に記入された不具合のうち当該不具合を受けた改善を既に実施しているものがあり、かつ、改善を行う予定があるものがない場合には7欄の「ハ」の「実施済」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、第三面に記入された不具合のうち改善を行う予定があるものがある場合には7欄の「改善予定」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、併せて改善予定年月を記入し、改善の予定がない場合には7欄の「予定なし」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- ⑰ 各欄に掲げられている項目以外で特に報告すべき事項は、8欄又は別紙に記載して添えてください。

4. 第三面関係

- ① 第三面は、前回検査時以降に把握した防火設備に係る不具合のうち第二面の6欄において指摘されるもの以外のものについて、把握できる範囲において記入してください。前回検査時以降不具合を把握していない場合は、第三面を省略することができます。
- ② 「不具合を把握した年月」欄は、当該不具合を把握した年月を記入してください。
- ③ 「不具合の概要」欄は、当該不具合の箇所を特定した上で、当該不具合の具体的内容を記入してください。不具合の概要を記入する場合にあっては、当該防火設備が設置されている区画の概要を明記してください。
- ④ 「考えられる原因」欄は、当該不具合が生じた原因として主として考えられるものを記入してください。ただし、当該不具合が生じた原因が不明な場合は、「不明」と記入してください。
- ⑤ 「改善（予定）年月」欄は、既に改善を実施している場合には実施年月を、改善を行う予定がある場合には改善予定年月を記入し、改善を行う予定がない場合には「－」を記入してください。
- ⑥ 「改善措置の概要等」欄は、既に改善を実施している場合又は改善を行う予定がある場合に、具体的措置の概要を記入してください。改善を行う予定がない場合には、その理由を記入してください。

第三十六号の九様式（第六条、第六条の三、第十一条の三関係）（A4）

定期検査報告概要書

（防火設備）

（第一面）

概要書と報告書で内容に違いのないようお願いします。

【1. 所有者】

【イ. 氏名のフリガナ】 アイカンコウカブシキガイシャ ダイョウトリシマリヤク アイチ タロウ
【ロ. 氏名】 愛知観光株式会社 代表取締役 愛知 太郎
【ハ. 郵便番号】 460-0001
【ニ. 住所】 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

【2. 管理者】

【イ. 氏名のフリガナ】
【ロ. 氏名】 所有者に同じ
【ハ. 郵便番号】
【ニ. 住所】

【3. 報告対象建築物】

【イ. 所在地】 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
【ロ. 名称のフリガナ】 アイチカンコウホテル
【ハ. 名称】 愛知観光ホテル
【ニ. 用途】 ホテル

【4. 検査による指摘の概要】

☒ 要是正の指摘あり (☐ 既存不適格) ☐ 指摘なし

報告書指摘の概要と
同じ内容を記入。

【5. 不具合の発生状況】

【イ. 不具合】 ☐ 有 ☒ 無
【ロ. 不具合記録】 ☐ 有 ☐ 無
【ハ. 不具合の概要】
【ニ. 改善の状況】 ☐ 実施済 ☐ 改善予定（令和 年 月に改善予定）
☐ 予定なし（理由： ）

防火設備の状況等

概要書と報告書で内容に違いのないようお願いいたします。

【1. 建築物の概要】

- 【イ. 階数】 地上 7 階 地下 1 階
【ロ. 建築面積】 572.44㎡
【ハ. 延べ面積】 4,474.08㎡

【2. 確認済証交付年月日等】

- 【イ. 確認済証交付年月日】 昭和 47 年 5 月 3 日 第 706-100 号
【ロ. 確認済証交付者】 ■建築主事等 □指定確認検査機関（ ）
【ハ. 検査済証交付年月日】 昭和 48 年 7 月 30 日 第 706-100 号
【ニ. 検査済証交付者】 ■建築主事等 □指定確認検査機関（ ）

【3. 検査日等】

- 【イ. 今回の検査】 令和〇〇年 10 月 20 日実施
【ロ. 前回の検査】 ■実施（令和〇〇年 10 月 31 日報告） □未実施
【ハ. 前回の検査に関する書類の写し】 ■有 □無

【4. 防火設備の検査者】

(代表となる検査者)

- 【イ. 資格】 (一級) 建築士 (大臣) 登録第 12345678 号
防火設備検査員 第 号
【ロ. 氏名のフリガナ】 ヤマダタロウ
【ハ. 氏名】 山田 太郎
【ニ. 勤務先】 山田建築設計事務所
(一級) 建築士事務所 (愛知県) 知事登録第(イ)〇-54321 号
【ホ. 郵便番号】 460-0008
【ヘ. 所在地】 名古屋市中区栄四丁目〇番〇号
【ト. 電話番号】 052-264-〇〇〇〇

(その他の検査者)

- 【イ. 資格】 () 建築士 () 登録第 号
防火設備検査員 第 B000000000 号
【ロ. 氏名のフリガナ】 カワムラ ジロウ
【ハ. 氏名】 川村 次郎
【ニ. 勤務先】 山田建築設計事務所
(一級) 建築士事務所 (愛知県) 知事登録第(イ)〇-54321 号
【ホ. 郵便番号】 460-0008
【ヘ. 所在地】 名古屋市中区栄四丁目〇番〇号
【ト. 電話番号】 052-264-〇〇〇〇

【5. 防火設備の概要】

【イ. 避難安全検証法等の適用】

- 区画避難安全検証法 () 階
□階避難安全検証法 () 階
□全館避難安全検証法
□その他 ()

【ロ. 防火設備】

- 防火扉 (6 枚) ■防火シャッター (18 枚)
■耐火クロススクリーン (8 枚) □ドレンチャー等 (台)
□その他 (台)

【6. 備考】

(注意)

この様式には、第三十六号の八様式に記入した内容と同一の内容を記入してください。第二面は、同様式第二面において指摘があった防火設備についてのみ作成し、第一面に添えてください。

この注意書き下線部によらず、第二面は全ページ提出してください。

記入例

管理番号 ○○○○○○○○

管理番号を記入

第三十六号の八様式（第六条関係）（A4）

定期検査報告書

（防火設備）

（第一面）

建築基準法第12条第3項の規定により、定期検査の結果を報告します。この報告書に記載の事項は事実に相違ありません。

特定行政庁 名古屋市長 様

提出日

令和〇〇年10月25日

愛知観光株式会社

報告者氏名 代表取締役 愛知 太郎

検査者氏名 山田 太郎

【1.所有者】

【イ.氏名のフリガナ】

【ロ.氏名】

【ハ.郵便番号】

【ニ.住所】

【ホ.電話番号】

アイチカンコウビジネス アイチ 太郎
愛知観光株式会社 代表取締役 愛知 太郎
460-0001
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
052-961-0000

定期調査報告書と整合

押印は不要になりましたが、今までどおり押印して提出も可能です。

【2.管理者】

【イ.氏名のフリガナ】

【ロ.氏名】

【ハ.郵便番号】

【ニ.住所】

【ホ.電話番号】

電話番号忘れずに記入

法人名から記入

管理者が報告する。

所有者に同じ

会社名、役職、氏名などの確認をお願いします。

【3.報告対象建築物】

【イ.所在地】

【ロ.名称のフリガナ】

【ハ.名称】

【ニ.用途】

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
アイチカンコウホテル
愛知観光ホテル
ホテル

地名地番又は住居表示で記入

第二面の6欄の「イ」の「要是正の指摘あり」のチェックボックスに「レ」マークを入れたものの全てにおいて、「既存不適格」のチェックボックスに「レ」マークを入れたときは、併せて4欄の「イ」の「既存不適格」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。

【4.検査による指摘の概要】

■要是正の指摘あり（□既存不適格）□指摘なし

※受付欄	※特記欄	※整理番号欄
令和 年 月 日		
第 号		
係員氏名		

調査報告書と検査報告書で内容に違いのないようお願いします。

管理者とは、法的に明確な規定はありませんが建物の維持管理、長期修繕計画など金銭面も含め、総合的に関与されているものがこれに当たると考えられます。

記入例

(第二面)

防火設備の状況等

【1. 建築物の概要】

【イ. 階数】 地上 7 階 地下 1 階
【ロ. 建築面積】 572.44㎡
【ハ. 延べ面積】 4,474.08㎡

指定確認検査機関の場合は機関の名称を（ ）内に記入する。

【2. 確認済証交付年月日等】

【イ. 確認済証交付年月日】 昭和47年 5 月 3 日 第 706-100 号
【ロ. 確認済証交付者】 ☒ 建築主事等 ☐ 指定確認検査機関
【ハ. 検査済証交付年月日】 昭和48年 7 月 30 日 第 706-100 号
【ニ. 検査済証交付者】 ☒ 建築主事等 ☐ 指定確認検査機関

既存不適格の判定に必要となるので年月までは記入する。
不明の場合は、登記簿等で確認した年月を備考欄に記入する

【3. 検査日】

【イ. 今回の検査】 令和 〇〇年 10 月 20 日 実施
【ロ. 前回の検査】 ☒ 実施 (令和 〇〇年 10 月 31 日 報告) ☐ 未実施
【ハ. 前回の検査に関する書類の写し】 ☒ 有 ☐ 無

【4. 防火設備の検査者】

(代表となる検査者)

【イ. 資格】 (一級) 建築士 (大臣) 登録 第 12345678 号
防火設備検査員 第 号

【ロ. 氏名のフリガナ】 ヤマダ タロウ

【ハ. 氏名】 山田 太郎
山田建築設計事務所

【ニ. 勤務先】 (一級) 建築士事務所 (愛知県) 知事登録 第(イ)〇-54321 号

【ホ. 郵便番号】 460-0008

【ヘ. 所在地】 名古屋市中区栄四丁目〇番〇号

【ト. 電話番号】 052-264-〇〇〇〇

(その他の検査者)

【イ. 資格】 () 建築士 () 登録 第 号
防火設備検査員 第 B000000000 号

【ロ. 氏名のフリガナ】 カワムラ ジロウ

【ハ. 氏名】 川村 次郎
山田建築設計事務所

【ニ. 勤務先】 (一級) 建築士事務所 (愛知県) 知事登録 第(イ)〇-54321 号

【ホ. 郵便番号】 460-0008

【ヘ. 所在地】 名古屋市中区栄四丁目〇番〇号

【ト. 電話番号】 052-264-〇〇〇〇

記入漏れのないようお願いします。

電話番号は直接電話連絡ができる番号の記入をお願いします。

【5. 防火設備の概要】

法令設置義務のみ記入

【イ. 避難安全検証法等の適用】

☐ 区画避難安全検証法 () 階
☐ 階避難安全検証法 () 階
☐ 全館避難安全検証法
☐ その他 ()

R02.04 追加

随時閉鎖式防火扉の枚数を記入する。(常時閉鎖式防火扉は含めない)。
防火扉の枚数は両開き扉及び親子扉は、両開き扉及び親子扉を1セットで1枚として扱う。

【ロ. 防火設備】

☒ 防火扉 (6 枚) ☒ 防火シャッター (18 枚)
☒ 耐火クロススクリーン (8 枚) ☐ ドレンチャー等 (台)
☐ その他 (台)

【6. 防火設備の検査の状況】

【イ. 指摘の内容】 ☒ 要是正の指摘あり (☐ 既存不適格) ☐ 指摘なし

【ロ. 指摘の概要】 防火扉 (堅穴区画)、防火シャッター (堅穴区画)、耐火クロススクリーン

【ハ. 改善予定の有無】 ☒ 有 (令和 〇〇 年 3 月に改善予定) ☐ 無

数ある指摘の中で、すべてにおいて
既存不適格の場合のみチェック。

大まかな指摘の状況を記入する。(区画まで)
但し、既存不適格は記入しない。

記入例

【7. 防火設備の不具合の発生状況】

【イ. 不具合】 ☐有 ☒無

【ロ. 不具合記録】 ☐有 ☐無

【ハ. 改善の状況】 ☐実施済 ☐改善予定（令和 年 月に改善予定） ☐予定なし

【8. 備考】

記入例

(第三面)

防火設備に係る不具合の状況

不具合を把握した年月	不具合の概要	考えられる原因	改善(予定)年月	改善措置の概要等
前回検査時以降に把握した防火設備に係る不具合のうち第二面の6欄において指摘されるもの以外のものについて、把握できる範囲において記入してください。 前回の検査時以降不具合を把握していない場合は、この面(第三面)を省略することができます。				

不具合とは



検査後すぐに是正が終了するようなものをいいます。

防火設備定期検査票

随時閉鎖式防火扉について記入する。
(常時閉鎖式防火扉は含めない)。

1. 前回指摘の改善状況

未改善項目は検査結果表の特記事項に
記入をお願いします。

検査項目	未改善	改善済	改善済の状況
(1) 防火扉		○	予備電源のバッテリーを交換した。
(2) 防火シャッター		○	予備電源のバッテリーを交換した。
(3) 耐火クロススクリーン			
(4) ドレンチャー等			
(5) その他 ()			

前回指摘事項について

- ・改善された場合は「改善済欄」へ○印を付し、その内容を「改善済の状況欄」へ記入してください。
- ・未改善の場合は「未改善欄」へ○印を付し、その内容を「検査結果表(特記事項欄も含む)」へ記入してください。
- ・既存不適格も同様。

2. 防火設備の種類

種 類	常時閉鎖式を除く防火扉	防火シャッター	耐火クロススクリーン	ドレンチャー	その他 ()
防火設備の有無	○	○	○	該当の設備に○印を付けてください。	

3. 避難安全検証法等の概要

(1) 適用除外の条項	(2) 検証法等の概要
区画避難安全検証法、 階避難安全検証法、 全館避難安全検証法、 法第38条の規定による認定等がある場合に記入してください。	
(3) 検証法等の適用に関する書類の保管状況	

☐ 保管している ・ ☐ 保管していない

備考 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

記入例 (感知器連動)

検査結果表
(防火扉)

当該検査に関与した検査者		氏 名	検査者番号
	代表となる検査者	山田 太郎	1
	その他の検査者	川村 次郎	2

番号	検査項目等	検査結果			担当検査者番号
		指摘なし	要是正	既存不適格	
(1)	閉鎖式防火扉	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照明器具及び懸垂物等の状況	○	—	1
(2)	常閉防火扉	扉の取付けの状況	○	—	1
		扉、枠及び金物の劣化及び損傷の状況	○	—	1
(3)	常閉防火扉	固定の状況	△	△	
(4)	人の通行の用に供する部分に設ける防火扉	作動の状況	—	○	1
(5)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	○	—	1
(6)		設置位置	○	—	1
(7)		感知の状況	○	—	1
(8)		温度ヒューズ装置	△	△	
(9)		設置の状況	△	△	
(10)		スイッチ類及び表示灯の状況	○	—	1
(11)		結線接続の状況	○	—	2
(12)		接地の状況	○	—	2
(13)	連動制御器	予備電源への切り替えの状況	—	○	2
(14)	連動機構用予備電源	劣化及び損傷の状況	○	—	2
(15)		容量の状況	○	—	2
(16)	自動閉鎖装置	設置の状況	○	—	2
(17)		再ロック防止機構の作動の状況	○	—	2
(18)	総合的な作動の状況	防火扉（常閉防火扉を除く。）の閉鎖の状況	—	○	2
(19)		防火区画の形成の状況	○		2
上記以外の					
特定行政庁の指定する項目は現在ありません。					

特記事項

前回指摘の未改善についても漏れのないよう記入をお願いします。

番号	検査項目等	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善（予定）年月
(5)	作動の状況	運動エネルギーが10Jを超えている（既存不適格）	ドアクローザーの調整（又は交換）。	〇〇年3月
(12)	連動制御器	自動的に予備電源に切り替わらない	電源切り替え部品の交換。	〇〇年3月
(17)	総合的な作動の状況	防火扉が閉鎖しない	電源切り替え部品の交換。	〇〇年3月

記入例 (温度ヒューズ式)

検査結果表
(防火扉)

当該検査に関与した検査者		氏 名	検査者番号
	代表となる検査者	山田 太郎	1
	その他の検査者	川村 次郎	2

番号	検 査 項 目 等		検 査 結 果			担当 検査者 番号		
			指摘なし	要是正	既 存 不適格			
(1)	防火扉	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照明器具及び懸垂物等の状況	○	－	－	1		
(2)		扉の取付けの状況	○	－	－	1		
(3)		扉、枠及び金物の劣化及び損傷の状況	○	－	－	1		
(4)		常閉防火扉	固定の状況					
(5)		人の通行の用に供する部分に設ける防火扉	○	－	－	1		
(6)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置	－	○	○	1	
(7)			感知の状況	－	○	○	1	
(8)		温度ヒューズ装置	設置の状況	○	－	－	1	
(9)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	－	○	○	1	
(10)				結線接続の状況	－	○	○	2
(11)				接地の状況	－	○	○	2
(12)				予備電源への切り替えの状況	－	○	○	2
(13)		連動機構用予備電源	劣化及び損傷の状況	－	○	○	2	
(14)				容量の状況	－	○	○	2
(15)		自動閉鎖装置	設置の状況	－	○	○	2	
(16)			再ロック防止機構の作動の状況	－	○	○	2	
(17)	総合的な作動の状況	防火扉（常閉防火扉を除く。）の閉鎖の状況	○	－	－	2		
(18)			防火区画の形成の状況					

上記以外の検査項目

特定行政庁の指定する項目は現在ありません。

特記事項

前回指摘の未改善についても漏れのないよう記入をお願いします。

番号	検査項目等	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善（予定）年月
(6)～(7)(9)～(16)	連動機構	異種用途区画（堅穴区画）が温度ヒューズ式で連動機構なし（既存不適格）	煙感知器等を設置して感知器で連動するのが望ましい。	無

記入例

(注意)

- ① この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36号の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、その他の検査者欄は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「－」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表(い)欄に掲げる各検査項目ごとに記入してください。

該当しない項目は④によらず、この記入例のように検査結果欄を＼にしてください。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表(い)欄に掲げる検査項目について同表(に)欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に○印を記入した場合で、建築基準法第3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、○印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ⑩ 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ⑪ 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっては特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を()書きで記入してください。
- ⑫ 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、防火扉の設置されている箇所及び指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記してください。なお、別添1の様式は別記第二号、別記第三号又は別記第四号の各々の別添1の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ⑬ 要是正とされた検査項目(既存不適格の場合を除く。)については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

記入例 (感知器連動)

(防火シャッター)

当該検査に 関与した 検査者	氏 名	検査者番号	
	代表となる検査者	山田 太郎 1	
	その他の検査者		

番号	検 査 項 目 等			検 査 結 果			担当 検査者 番号
				指摘 なし	要是正	既存 不適格	
(1)	防火シャ ッター	設置場所の周囲 状況	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照 明器具及び懸垂物等の状況	○	—	—	1
(2)		駆動装置	軸受け部のブラケット、巻取りシャフト 及び開閉機の取付けの状況※				
(3)			スプロケットの設置の状況※				
(4)			軸受け部のブラケット、ベアリング及び スプロケット又はロープ車の劣化及び 損傷の状況※				
(5)		カーテン部	ローラーチェーン又はワイヤーロープ の劣化及び損傷の状況	○	—	—	1
(6)			スラット及び座板の劣化等の状況	○	—	—	1
(7)			吊り元の劣化及び損傷並びに固定の状 況	○	—	—	1
(8)		ケース	劣化及び損傷の状況	○	—	—	1
(9)		まぐさ及びガイド レール	劣化及び損傷の状況	—	○	—	1
(10)		危害防止装置 (人の通行の用 に供する部分に 設ける防火シャ ッターに係るも のに限る。)	危害防止用連動中継器の配線の状況	○	—	—	1
(11)			危害防止装置用予備電源の劣化及び損 傷の状況	○	—	—	1
(12)			危害防止装置用予備電源の容量の状況	—	○	—	1
(13)			座板感知部の劣化及び損傷並びに作動 の状況	○	—	—	1
(14)	連動機構	煙感知器、熱煙複 合式感知器及び 熱感知器	設置位置	○	—	—	1
(15)			感知の状況	—	○	—	1
(16)		温度ヒューズ装 置	設置の状況				
(17)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	○	—	—	1
(18)			結線接続の状況	○	—	—	1
(19)			接地の状況	○	—	—	1
(20)			予備電源への切り替えの状況	○	—	—	1
(21)		連動機構用予備 電源	劣化及び損傷の状況	○	—	—	1
(22)			容量の状況	○	—	—	1
(23)		自動閉鎖装置	設置の状況	○	—	—	1
(24)	総合的な作動の状況	手動閉鎖装置	設置の状況	○	—	—	1
(25)							
(26)							
(27)	防火区画の形成の状況			—	○	—	1

網掛け項目は日常的に開閉する防火シャッターのみ記入。

同項目の (26)、(27) の
項で点検が行われる以外
のものを対象として状況
を確認する。

堅穴区画を形成する複数の防
火シャッターが一の感知器の
作動信号により一斉に閉鎖す
ることを確認する。

記入例

上記以外の検査項目				
	特定行政庁の指定する項目は現在ありません。			
特記事項				
前回指摘の未改善についても漏れのないよう記入をお願いします。				
番号	検査項目等	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善（予定）年月
(9)	まぐさ及びガイドレール	ガイドレールの溝幅が一部で変形し狭い。	ガイドレール交換。	〇〇年 3月
(12)	危害防止装置	予備電源の容量が不足している。	バッテリー交換。	〇〇年 3月
(16)	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	煙感知器の確認灯が点灯しない。	煙感知器交換。	〇〇年 3月
(27)	総合的な作動の状況	一部の防火シャッターが閉鎖しない。	ガイドレール交換等改修。	〇〇年 3月

(注意)

- ① この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36号の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、その他の検査者欄は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「－」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表（い）欄に掲げる各検査項目ごとに記入してください。該当しない項目は④によらず、この記入例のように検査結果欄を\にしてください。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表（い）欄に掲げる検査項目に別表（ろ）欄に掲げる改善事項が適用される場合に、別表（に）欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に○印を記入した場合で、建築基準法第3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、○印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ⑩ ※欄は、日常的に開閉するものについてのみ記入してください。
- ⑪ 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ⑫ 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっても特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を（ ）書きで記入してください。
- ⑬ 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、防火シャッターの設置されている箇所及び指摘（特記すべき事項を含む）のあった箇所を明記してください。なお、別添1の様式は別記第一号、別記第三号又は別記第四号の各々の別添1の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ⑭ 要是正とされた検査項目（既存不適格の場合を除く。）については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

記入例 (温度ヒューズ)

(防火シャッター)

当該検査に 関与した 検査者		氏 名	検査者番号
	代表となる検査者	山田 太郎	1
	その他の検査者		

番号	検 査 項 目 等			検 査 結 果			担当 検査者 番号
				指摘な し	要是正	既存 不適格	
(1)	防火シャ ッター	設置場所の周囲 状況	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照 明器具及び懸垂物等の状況	○	—	—	1
(2)		駆動装置	軸受け部のブラケット、巻取りシャフト 及び開閉機の取付けの状況※				
(3)			スプロケットの設置の状況※				
(4)			軸受け部のブラケット、ベアリング及び スプロケット又はロープ車の劣化及び 損傷の状況※				
(5)		カーテン部	ローラーチェーン又はワイヤーロープ の劣化及び損傷の状況	○	—	—	1
(6)			スラット及び座板の劣化等の状況	○	—	—	1
(7)			吊り元の劣化及び損傷並びに固定の状 況	○	—	—	1
(8)		ケース	劣化及び損傷の状況	○	—	—	1
(9)		まぐさ及びガイ ドレール	劣化及び損傷の状況	—	○	—	1
(10)		危害防止装置 (人の通行の用 に供する部分に 設ける防火シャ ッターに係るも のに限る。)	危害防止用連動中継器の配線の状況	—	○	○	1
(11)			危害防止装置用予備電源の劣化及び損 傷の状況	—	○	○	1
(12)			危害防止装置用予備電源の容量の状況	—	○	○	1
(13)			座板感知部の劣化及び損傷並びに作動 の状況	—	○	○	1
(14)			作動の状況	—	○	○	1
(15)	連動機構	煙感知器、熱煙複 合式感知器及び 熱感知器	設置位置	—	○	○	1
(16)			感知の状況	—	○	○	1
(17)		温度ヒューズ装 置	設置の状況	○	—	—	1
(18)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況	—	○	○	1
(19)			結線接続の状況	—	○	○	1
(20)			接地の状況	—	○	○	1
(21)			予備電源への切り替えの状況	—	○	○	1
(22)		連動機構用予備 電源	劣化及び損傷の状況	—	○	○	1
(23)			容量の状況	—	○	○	1
(24)		自動閉鎖装置	設置の状況	—	○	○	1
(25)		手動閉鎖装置	設置の状況	○	—	—	1
(26)	総合的な作動の状況		防火シャッターの閉鎖の状況	○	—	—	1
(27)			防火区画の形成の状況				

記入例

上記以外の検査項目				
		特定行政庁の指定する項目は現在ありません。		
特記事項				
前回指摘の未改善についても漏れのないよう記入をお願いします。				
番号	検査項目等	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善（予定）年月
(9)	まぐさ及びガイドレール	ガイドレールの溝幅が一部で変形し狭い。	ガイドレール交換。	〇〇年 3月
(10) ～ (14)	危害防止装置	人の通る防火シャッターは危害防止機構が未装着。（既存不適格）	危害防止機構の設置が望ましい。	無
(15) ～ (16) (18) ～ (24)	連動機構	異種用途区画（堅穴区画）が温度ヒューズ式で連動機構なし（既存不適格）	煙感知器等を設置して感知器で連動するのが望ましい。	無

(注意)

- ① この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第 36 号の 8 様式第二面 4 欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が 1 人の場合は、その他の検査者欄は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「－」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表（い）欄に掲げる各検査項目ごとに記入してください。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表（い）欄に掲げる検査項目について、別表（に）欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に○印を記入した場合で、建築基準法第 3 条第 2 項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、○印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が 1 人の場合は、記入不要です。
- ⑩ ※欄は、日常的に開閉するものについてのみ記入してください。
- ⑪ 「上記以外の検査項目」欄は、第 2 第 2 項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第 2 第 3 項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ⑫ 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合であっても特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を（ ）書きで記入してください。
- ⑬ 各階平面図を別添 1 の様式に従い添付し、防火シャッターの設置されている箇所及び指摘（特記すべき事項を含む）のあった箇所を明記してください。なお、別添 1 の様式は別記第一号、別記第三号又は別記第四号の各々の別添 1 の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ⑭ 要是正とされた検査項目（既存不適格の場合を除く。）については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添 2 の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添 1 の様式に明記してください。

該当しない項目は④によらず、この記入例のように検査結果欄を\にしてください。

記入例

別記第三号様式 (A4)

検査結果表
(耐火クロススクリーン)

検査結果表 (耐火クロススクリーン第1面)

当該検査に関与した検査者	代表となる検査者	氏 名	検査者番号
		山田 太郎	1
	その他の検査者	川村 次郎	2

番号	検 査 項 目 等			検 査 結 果			担当 検査者 番号	
				指摘なし	要是正	既存 不適格		
(1)	耐火クロス スクリーン	設置場所の周囲 状況	閉鎖の障害となる物品の放置並びに照 明器具及び懸垂物等の状況	○	－	－	1・2	
(2)		駆動装置	ローラチェーンの劣化及び損傷の状況	○	－	－	1・2	
(3)		カーテン部	耐火クロス及び座板の劣化及び損傷の 状況	－	○	－	1・2	
(4)			吊り元の劣化及び損傷並びに固定の状 況	○	－	－	1・2	
(5)		ケース	劣化及び損傷の状況	○	－	－	1・2	
(6)		まぐさ及びガイ ドレール	劣化及び損傷の状況	○	－	－	1・2	
(7)		網掛け項目は巻 取り式のみ記 入。	危害防止装置 (人の通行の用 に供する部分に 設ける耐火クロ ススクリーンに 関するものに限 る)	危害防止用連動中継器の配線の状況	○	－	－	1・2
(8)				危害防止装置用予備電源の劣化及び損 傷の状況	○	－	－	1・2
(9)				危害防止装置用予備電源の容量の状況	○	－	－	1・2
(10)				座板感知部の劣化及び損傷並びに作動 の状況	○	－	－	1・2
(11)		巻取り式・バラン ス式ともに記入。		作動の状況	○	－	－	1・2
(12)								
(13)	連動機構	煙感知器、熱煙複 合式感知器及び 熱感知器	設置位置	○	－	－	1・2	
(14)			感知の状況	○	－	－	1・2	
(15)		同項目の (22)、(23) の項で点 検が行われる以外のものを対 象として状況を確認する。	スイッチ類及び表示灯の状況	○	－	－	1・2	
(16)			結線接続の状況	○	－	－	1・2	
(17)			接地の状況	○	－	－	1・2	
(18)			予備電源への切り替えの状況	○	－	－	1・2	
(19)		連動機構用予備 電源	劣化及び損傷の状況	○	－	－	1・2	
(20)			容量の状況	○	－	－	1・2	
(21)		自動閉鎖装置	設置の状況	○	－	－	1・2	
(22)	総合的な作動の状況		耐火クロススクリーンの閉鎖の状況	○	－	－	1・2	
(23)			防火区画の形成の状況	○	－	－	1・2	
上記以外の検査項目				堅穴区画を形成する複数の耐火クロススクリーンが一の感 知器の作動信号により一斉に閉鎖することを確認する。				
特定行政庁の指定する項目は現在ありません。								

特記事項

前回指摘の未改善についても漏れのないよう記入をお願いします。

番号	検査項目等	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善(予定)年月
(3)	カーテン部	耐火クロスに亀裂があり、裏面まで貫通している。	耐火クロス取替。	〇〇年3月

記入例

(注意)

- ① この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36号の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「－」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表(い)欄に掲げる各検査項目ごとに記入してください。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表(い)欄に掲げる検査項目について同表(ろ)欄に掲げる検査事項のいずれかが同表(に)欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に○印を記入した場合で、建築基準法第3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、○印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ⑩ 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ⑪ 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっても特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善(予定)年月」欄に当該年月を()書きで記入してください。
- ⑫ 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、耐火クロススクリーンを設置されている箇所及び指摘(特記すべき事項を含む)のあった箇所を明記してください。なお、別添1の様式は別記第一号、別記第二号又は別記第四号の各々の別添1の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ⑬ 要是正とされた検査項目(既存不適格の場合を除く。)については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

記入例

別記第四号様式 (A4)

検査結果表

検査結果表 (ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備第1面)

(ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備)

当該検査に関与した検査者		氏 名	検査者番号
		代表となる検査者	
		その他の検査者	

番号	検 査 項 目 等			検 査 結 果			担当 検査者 番号	
				指摘なし	要是正	既存 不適格		
(1)	ドレンチャー等	設置場所の周囲状況	作動の障害となる物品の放置並びに照明器具及び懸垂物等の状況					
(2)		散水ヘッド	散水ヘッドの設置の状況					
(3)		開閉弁	開閉弁の状況					
(4)		排水設備	排水の状況					
(5)		水源	貯水槽の劣化及び損傷、水質並びに水量の状況					
(6)			給水装置の状況					
(7)		加圧送水装置	ポンプ制御盤のスイッチ類及び表示灯の状況					
(8)			結線接続の状況					
(9)			接地の状況					
(10)			ポンプ及び電動機の状況					
(11)			加圧送水装置用予備電源への切り替えの状況					
(12)			加圧送水装置用予備電源の劣化及び損傷の状況					
(13)			同項目の(25)、(26)の項で点検が行われる以外のものを対象として状況を確認する。	加圧送水装置用予備電源の容量の状況				
(14)				圧力計、呼水槽、起動用圧力スイッチ等の付属装置の状況				
(15)	連動機構	煙感知器、熱煙複合式感知器及び熱感知器	設置位置					
(16)			感知の状況					
(17)		連動制御器	スイッチ類及び表示灯の状況					
(18)			結線接続の状況					
(19)			接地の状況					
(20)			予備電源への切り替えの状況					
(21)		連動機構用予備電源	劣化及び損傷の状況					
(22)			容量の状況					
(23)		自動作動装置	設置の状況					
(24)		手動作動装置	設置の状況					
(25)	総合的な作動の状況		ドレンチャー等の作動の状況					
(26)			防火区画の形成の状況					

同項目の(25)、(26)の項で点検が行われる以外のものを対象として状況を確認する。

堅穴区画を形成する複数のドレンチャー等が一の感知器の作動信号により一斉に閉鎖することを確認する。

記入例

上記以外の検査項目

特定行政庁の指定する項目は現在ありません。

特記事項

前回指摘の未改善についても漏れのないよう記入をお願いします。

番号	検査項目等	指摘の具体的内容等	改善策の具体的内容等	改善（予定）年月

（注意）

- ① この書類は、建築物ごとに作成してください。
- ② 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- ③ 「当該検査に関与した検査者」欄は、建築基準法施行規則別記第36号の8様式第二面4欄に記入した検査者について記入し、「検査者番号」欄に検査者を特定できる番号、記号等を記入してください。当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、その他の検査者欄は記入不要です。
- ④ 該当しない検査項目がある場合は、その「検査結果」欄及び「担当検査者番号」欄に「－」を記入してください。
- ⑤ 「検査結果」欄は、別表（い）欄に掲げる各検査項目ごとに記入してください。
- ⑥ 「検査結果」欄のうち「要是正」欄は、別表（い）欄に掲げる検査項目について同表（ろ）欄に掲げる検査事項のいずれかが同表（に）欄に掲げる判定基準に該当する場合に○印を記入してください。
- ⑦ 「検査結果」欄のうち「指摘なし」欄は、⑥に該当しない場合に○印を記入してください。
- ⑧ 「既存不適格」欄は、「要是正」欄に○印を記入した場合で、建築基準法第3条第2項の規定の適用を受けているものであることが確認されたときは、○印を記入してください。
- ⑨ 「担当検査者番号」欄は、「検査に関与した検査者」欄で記入した番号、記号等を記入してください。ただし、当該防火設備の検査を行った検査者が1人の場合は、記入不要です。
- ⑩ 「上記以外の検査項目」欄は、第2第2項の規定により特定行政庁が検査項目等を付加している場合に、当該検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。また、第2第3項に規定する認定検査項目等が定められている場合に、当該認定検査項目等を追加し、⑤から⑨までに準じて検査結果等を記入してください。
- ⑪ 「特記事項」は、検査の結果、要是正の指摘があった場合のほか、指摘がない場合にあっては特記すべき事項がある場合に、該当する検査項目の番号、検査項目を記入し、「指摘の具体的内容等」欄に指摘又は特記すべき事項の具体的内容を記入するとともに、改善済みの場合及び改善策が明らかになっている場合は「改善策の具体的内容等」欄にその内容を記入し、改善した場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を記入し、改善予定年月が明らかになっている場合は「改善（予定）年月」欄に当該年月を（ ）書きで記入してください。
- ⑫ 各階平面図を別添1の様式に従い添付し、ドレンチャーその他の水幕を形成する防火設備の設置されている箇所及び指摘（特記すべき事項を含む）のあった箇所を明記してください。なお、別添1の様式は別記第一号、別記第二号又は別記第三号の各々の別添1の様式に記載すべき事項を合わせて記載することとして構いません。
- ⑬ 要是正とされた検査項目（既存不適格の場合を除く。）については、要是正とされた部分を撮影した写真を別添2の様式に従い添付するとともに、撮影した写真の位置を別添1の様式に明記してください。

記入例

別添様式 関係写真 (A 4)

部 位	番 号	検 査 項 目 等	検 査 結 果
	1号(16)	総合的な作動の状況	■要是正 □その他
写 真 貼 付 ※指摘代表写真のみとしてよい (例：防火扉) (その他特記すべき事項、特記すべき 既存不適格は、必要に応じ作成。)		特記事項	
		写真番号1	※ 図面にも記入する。
		防火扉が閉鎖しない (3F 西階段)	※ 図面にも指摘事項を記入
		電源切り替え部品の交換。	

部 位	番 号	検 査 項 目 等	検 査 結 果
	2号(9)	まぐさ及びガイドレール	■要是正 □その他
写 真 貼 付 (その他特記すべき事項、特記すべき 既存不適格は、必要に応じ作成。)		特記事項	
		写真番号2	
		ガイドレールの溝幅が一部で変形し狭い。(4F 東階段)	
		ガイドレール交換。	

(注意)

- この書類は、検査の結果で「要是正」とされた項目のうち、「既存不適格」ではない項目等について作成してください。また、「既存不適格」及び「指摘なし」の項目等についても、特記すべき事項があれば、必要に応じて作成してください。「要是正」の項目等がない場合は、この書類は省略しても構いません。下線の場合は特記事項欄に（その他特記事項）として記入し、図面に箇所を明記してください。
- 記入欄が不足する場合は、枠を拡大、行を追加して記入するか、別紙に必要な事項を記入して添えてください。
- 「部位」欄の「番号」、「検査項目」は、それぞれ別記様式の番号、検査項目に対応したものを記入してください。
- 「検査結果」欄は、検査の結果、要是正の指摘があった場合は「要是正」のチェックボックスに「レ」マークを入れ、それ以外の場合で特記すべき事項がある場合は「その他」のチェックボックスに「レ」マークを入れてください。
- 写真は、当該部位の外観の状況が確認できるように撮影したものを添付してください。下線の場合、上記と同様